で神奈川の後藤選手に〇対三で敗退しました。五段の部は、平賀選手は一回戦で大阪の岡選手に二対一で勝利、二回戦で茨城の鈴木選手に三対〇で勝利、三回戦で島根の日野選手に三対〇で勝利しベスト8に進出、四回戦で神奈川の山本選手に〇対三で敗退しベスト4成らず　岐阜県の総合成績は三名の選手の活躍により八位の好成績で終わりました。

全日本大会を終えて今後の課題として、体幹を鍛え、技は正確に、緩急強弱、気魄、残心、仮想敵との間と間合いなど、強化稽古を通して居合道部全員で取組み、来年度以降の全日本大会では、上位を目指して良い成績が残せるように努力いたします。

◎第五十六回東海四県対抗居合道大会

令和八年三月八日、鈴鹿市武道館において開催されました。

監督　中川由紀子

選手　先鋒　宮田康仁郎（学生）
次鋒　林　良樹（公務員）
七将　尾崎　嘉秀（会社員）
六将　小川　誠（会社員）
五将　古田　宮紀（無職）
四将　平賀　友大（会社員）
三将　村橋　祐輝（会社員）
副将　澤田　健（会社員）
大将　栗本　英（公務員）

二月下旬あたりからの暖かい気候から打って変わり、当日朝は、会場周辺でも風花が舞う厳しい寒さの中での大会となりました。審判監督会議において「前・柄当て・三方切り・顔面当て・四方切り」と指定されました。

第一試合は、昨年度優勝の愛知県と対戦しました。寒さと緊張からか演武に硬さが見られ、結果は三対六で負けました。なお、総旗数は、十一本でした。

第二試合は、三重県と対戦しました。徐々に前年大会に出場した選手たちを中心に気魄のこもった演武を見せ、結果は六対三で勝ち、総旗数は十八本でした。

第三試合は、静岡県と対戦しました。結果は三対六で負け、総旗数は十三本でした。

この結果、勝者数で静岡県と並びましたが、総旗数により、三位となりました。なお、三将の村橋選手が全勝賞を獲得しました。

今回の大会では、演武に於いて「礼法」「居合の中心生命である、抜き付け・斬り付け」を重視してまいりました。選手もそれに応えてくださったと思います。そして、今大会最高齢の古田選手（七十九歳）は、練習を休むこともなく試合においても全力で挑み、まさに「生涯居合道」を体現しておられたと思います。今回は、強化練習が幾度と大雪に見舞われ、居合道部の錬成会も中止になったり、大会一週間前に候補選手の体調不良で選手の交代があったりと、かなりの混乱もございました。そんな中でも全力を尽くしてくださった選手の方々やご指導を頂いた先生方、審判・役員の先生方に御礼申し上げます。

今後の課題は、「選手層の薄さ」を克服するために、もっと低段位選手の育成にも力を入れていくべきではないかと思います。

監督　中川由紀子

武道祭

第一回岐阜県武道祭

令和八年三月二十日、大垣市武道館で剣道・居合道・杖道演武大会が開催されました。

岐阜県剣道連盟が初めて武道祭を開催したところ、多くの参加者の出場により、技をお互いに高め合い、武道のすばらしさを再認識するとともに、武道の魅力を発信できた機会となりました。

事務局だより

〇全日本剣道連盟称号・段位審査規定の改定

（六十五歳以上の修業年限の短縮）

令和七年三月に改定された六十五歳以上の方々の六段・七段・八段の修業年限短縮に続き、令和八年四月一日より、二段・三段・四段・五段の修業年限も短縮となります。

（受審資格）規則第一七条

二段　初段受有後一年以上修業した者
三段　二段受有後一年以上修業した者
四段　三段受有後二年以上修業した者
五段　四段受有後二年以上修業した者

〇岐阜県剣道連盟段級位審査登録料・審査料の改定

この度、岐阜県剣道連盟では、二十年ぶりに段級審査登録料・審査料の改定を実施することとなりました。これは、全日本剣道連盟の登録料改定に伴うことと併せて近年の物価高騰などにより、現状では費用を賄えなくなってきていることが大きな要因となっております。

その改定幅は、物価上昇率と同程度の二割弱の改定率となっています。詳細については、岐阜県剣道連盟ホームページ、当連盟及び各支部でご確認ください。会員の皆様のご理解・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。